

子どもたち縄跳び大会

6月27日(土)の「わくわくキッズ」から。5月(毎月1回・土曜日当別小学校体育館)からスタートした「わくわくキッズ」は地域のボランティアや医療大学学生ボランティアで支えられている子どもたちの「居場所」作りだ。6月は「縄跳び大会」。子どもたちが4チームに分かれて大縄跳びを使い、みんなで何回跳べるかに挑戦。単純だけれど面白い。一発勝負じゃなくて何回かトライアルしての挑戦というのもいいね。なんだか去年よりも子どもたちが増えたような気がする。しかも元気が良くて、テンションが上がっているのか、思っきり大きな声を出して、むやみに走り回っている子どもも多い。最近見掛けない、昔子どもみたいでいい。通学する子どもの声や公園で遊ぶ子どもの声がうるさいとか、住宅街に保育所や幼稚園を作ると子どもの声が煩わしいからイヤとかのニュースを聴くと絶句する。子どもの遊ぶ声が騒音に聞こえるというのは既に病んでいると言わざるを得ない。

7月18日の「わくわくキッズ」は、紙ひこうきを作ってみんなで飛ばす「紙ひこうき大会」だ。当別の子ども、皆おいで!

夏の山陰⑩

縄とびの子が阿蘇岩山へひるがへる (読み人知らず)



戦後七〇年の節目

劉連仁記念碑が《磁場》となって
日中市民の交流広がる!

二〇一〇年から「旅システム(札幌市)」が毎年企画している劉連仁記念碑ツアーは、今年も六月二十九日(月)に開催された。今年で七回目。今回は、故劉連仁(別掲)さんの長男煥新さんと利さん父子も参加。迎える当別側は、劉記念碑建立の運動を支えた当別町民らでつくる「劉連仁生還記念碑を伝える会」(会長三上勝夫)のメンバーや町民ら。宮司正毅町長も歓迎の挨拶で迎えた。再会を果たした煥新さんと当別町民や全道のツアー参加者たちとの交流が続いた。



劉記念碑前で献花する劉煥新・利父子

豪雪の当別で、生き抜き延びた劉連仁さんは奇跡の人だ。当別町民らが記念碑を建立して劉さんらと交流して記念碑を語り伝えてきたこと

劉煥新と劉利さんと行く
当別ツアーがやって来た

劉記念碑前では、劉煥新父子が献花。来賓の挨拶で、宮司当別町長は、厳寒・



劉煥新さんから町長と木屋路さんへ掛け軸の贈呈。(左から)劉利、町長、劉煥新、木屋路、三上会長の各氏。

は、「この町の大変な誇りだ」と挨拶。こうした個人レベルの交流が日中両国の平和と友好に寄与することを望むとして、ノベル文学賞受賞作家莫言の言葉を引用した「人と人は本来非常に親しい間柄なのに、戦争がすべてをぶち壊しました。当別の人々が劉連仁を発見してから示した人間性・善意・正直、そしてそれ以来四〇年以上劉連仁の事跡を語り継ぐために払った努力は、中日両国の人民が本来友好的であり、いかなる矛盾も存在するはずがないことを雄弁に証明しているのです」(二〇〇五

年一月莫言が当別を訪れた時)と。それに応えて、劉煥新さんは、再びここに來られて感謝しています、この地に記念碑が建立されていることに意義がありますと挨拶。父の十三年間の逃亡生活は、今考えると悲しいし、想像もできません戦争は中国人民だけではなく日本国民、北海道民にも被害を与えました。皆さんのお陰で父は助けられました、そのことを忘れるなど何度も父に言われました、と語った。(二面へ)

当別町週間行事予定

五日(日) 町民スポーツの日・総合体育館無料開放(午後九時まで)
阿蘇岩ウォーキング(総合体育館前集合 午前九時半)
六日(月) 町長の聞かせて意見(応接室 午前八時半)
プレミアム商品券優先販売(商工会館 午前一〇時〜午後三時 一〇日まで)
初級テニススクール(スウェーデンヒルズ テニスコート 午前一〇時半)
七日(火) 胃・肺・大腸がん検診(西当別コミセン 午前七時)
スポーツ吹き矢(白樺コミセン 午前九時)
放課後学習会・小学生午後三時四〇分(当別小ブレイハウス、中学生午後五時(白樺コミセン))
当別町情報公開・個人情報保護審査会(役場 午後二時半)
八日(水) 親子エンジョイパーク(総合体育館 午後一時)
法律相談(ゆとり午後一時半)
気功教室(西当別コミセン 午後二時)
ジュニアチャレンジスポーツ(白樺コミセン 午後三時半)
ドルフィンスイミング(当別小プール 午後五時十五分)
九日(木) 夜間納税相談(役場一階 午後七時半まで)
一〇日(金) 胃・肺・大腸がん検診(ゆとり 午前七時)
ことぶき大学・パスポート教室(白樺コミセン 午前一〇時)
北海道クラシックラリー(太美地区) 十一日(土) 青少年スポーツの時間・総合体育館無料開放(午前中)
チャレンジドクラブ(当別小体育館 午前十時)
ドルフィンスイミング(当別小プール 午前十時十五分)

当別新聞

当別新聞販売センター
ASA石狩当別
毎日新聞販売所
〒061-0227
石狩郡当別町園生711
電話
0133-23-2066
FAX
0133-23-2099

<http://www.htb.co.jp>
(ASA on HTB)
このホームページでは、
当別新聞が毎週更新
されていてカラーで見
ることが出来ます。

(二面からつづく)
若葉会館に移動して皆で交流会

その後、一行は若葉会館に移動して昼食を挟みながら交流会を開いた。

木屋路喜一郎さん(同伝える会名誉顧問)は、劉連仁第一発見者の故郷田清治さんらとともに劉さん保護に立ち会った唯一の生き証人である。木屋路さんは、劉さんとの交流の話をした。劉さんが袴田さんに宛てた手紙を紹介、そこには、あの「発見」によって私は新しい生活が始まった、忘れたことはない、手紙よりも皆さんに会いたいと綴られていた。

同伝える会会長代行の大澤勉さんは、伝える会の役割について、私たちがただ知っているだけでもダメ、記念碑の説明が出来ただけでもダメ、次の世代にこの歴史の事実を語り継いでいくことが大事じゃないかと語った。

自分の人生と重ね合わせて語る参加者たち

今年の記念碑ツアーには、本当に多彩な人たちが約五〇名ほどが集まった。それぞれが、自分の人生生き方に重ねるようにして発言する姿勢が印象的で、語りずにはいられないという気持ちで伝わって来て、本当に楽しい集いだった。

今月、劉さんを描いた児童文学作品が出版される

函館在住の児童文学の書き手である森越智子さんは、童心社編集部橋口さんと参加。五年越しに書

劉煥新・利父子を囲んでの交流会

日中の歴史を若い世代へ語り伝えることの大切さ。

きあげた作品『生きる』劉連仁の物語』(童心社)が今月書店の店頭で並び、劉さんの店頭に並び、劉さんの苛烈な半生をとおして、命の尊厳と戦争の加害・被害の事実を若い世代へ伝えたいと語った。

ツアーには、NHK北見支局の職員も参加。劉連仁の凄まじい生涯を何も知らなかった北海道人として恥ずかしかつた。取材をして、劉さんの二面性に触れた。普段は温厚で優しい面と、強制連行のこ



劉記念碑前で、ツアー参加者全員で記念撮影

た市民レベルの仲良しとしていく活動が大事だと、そのために同伝える会の活動を私なりに支援していきたい、と語った。

劉さんが穴に隠れていた当別の山中の向こう側である旧浜益村に一〇数年住んでいたという上田さん(芽室町)は、ここら辺りはオオムラサキ(国蝶)やトカゲの北限で、タケノコの名産地、そうした住みやすさを劉さんも感じていたんじゃないかと笑われた。劉さんの故郷に行っ

当時小学生だった太美の町民の話

太美に住んでいた町民の話も面白かった。劉さんが発見された材木沢あたりは、当時子どもたちの格好のスキー場だったという。小学生だった私は、劉さんが「発見」される前から、雪男がいる大きな山男がいてという噂が広がっていたという話を聞いていたという新証言も。劉さんが帰国時、当時の日本政府が見舞金として十万円(今の数百万円)を持参した時、劉さんは訳の分からないお金は受け取れないと拒否。その強い精神に、私は

劉さんは生前、日本政府に賠償と謝罪を求めて訴訟を起こしたが、最高裁で敗訴した。しかし、その精神は息子煥新さんに受け継がれている。煥新さんは、私は賠償よりも心からの謝罪を日本政府に求めています、この交流会でも話された。劉さんが隠れていた当別山中の「穴」は、風化して山に帰っていた。その歳月を想う。

一九五八年二月当別の山中で劉連仁が「保護」されて、半世紀を過ぎた。木屋路喜一郎さんと二人で、数年前、雪残る当別山中に山スキーで入って、隠れていた「穴」を捜したが、見つかることが出来なかった。風化して山肌には隠れてしまっていたのである。その



の歳月を思い、今日のツアー一行は、その後、当別開拓の苦闘を描いた本庄陸男の名作『石狩川』の文学碑などを巡って帰路についた。

(清水 三喜雄)

<別掲>

「劉連仁(1913~2000)」

中国山東省高密県生れ。農民。1944年9月拉致され日本に強制連行された。同年11月から北海道沼田明治鉱業昭和鉱山で働かされる。1945年7月30日、仲間4人と同鉱山を脱出。劉連仁以外は捕まる。その後、戦争が終わったことも知らず・知られず、13年の間、北海道の山中を彷徨う。1958年2月9日当別山中(材木沢)で発見され保護される。生前三度、当別を訪れ町民らと交流。死後、当別住民らの草の根運動のなかで、2002年9月1日劉連仁生還記念碑が建立される。その間、2001年強制連行訴訟の一審東京地裁で勝訴、2007年最高裁で敗訴。

『赤いコーリャン』などで著名なノーベル文学賞作家莫言の小説には、劉連仁をモデルにした人物が度々登場する。



内科 救急当番医

5日(日)さ
6日(月)堀
7日(火)勤
8日(水)堀
9日(木)と
10日(金)近
11日(土)堀

<平日夜間>
午後7時~午後9時
<土曜日>
午後2時~午後5時
<日祝祭日>
午前9時~正午
午後2時~午後5時

堀=堀江病院(22-3111)
近=近藤医院(23-2021)
勤=勤医協当別診療所(23-3010)
と=とうべつ内科クリニック
(22-1313)
さ=さわぎ医院(25-2055)
ス=スウェーデン通り内科循環器科
クリニック(25-3151)